



# 電子メール保護サービス

アクティベーションガイド



[アクティベーションガイド \(PDF\)](#)

**Postini, Inc.**  
959 Skyway Road, Suite 200  
San Carlos, CA 94070  
[www.postini.com](http://www.postini.com)

Part number: ACTEE\_04\_JA\_01

2006 年 12 月 3 日

Copyright 2006 Postini, Inc. All rights reserved.

#### 著作権と商標について

Postini、Postini のロゴマーク、Perimeter Manager、Security Manager、Network Edition、AirPostini、および Postini Message Platform は、米国 Postini, Inc. の商標または登録商標です。Postini は米国 Postini, Inc. の登録商標です。その他のすべての固有な名は、保有する各社の商標または登録商標です。

Postini 社のソリューションのどれにも、その使用に当たっては、元の契約に含まれているライセンス条項が適用されます。Postini 社のサービスに関する知的財産権は、現在および将来にわたってすべて米国 Postini, Inc. 社の独占的な権利です。Postini 社のいかなる製品またはサービスも、そのソースコードの解読、逆コンパイル、開発を試みたりはできません。また、第三者がそうした行為を行うことの認識がありながら、そのことを放置してはいけません。

Postini 社の資料を販売、転売、ライセンス、およびサブライセンス提供してはいけません。また、Postini 社の書面による事前の承諾なしに譲渡してはいけません。このマニュアルをコピーする権利は著作権法によって制限されています。Postini 社の書面による事前の承認なしに複製、改作、あるいは編集を行うことは法律によって禁止されており、その法律に対する違反行為を構成し、罰則を伴うことがあります。Postini 社の書面による承諾なしにこのマニュアルのいかなる部分も複製することを禁止します。Copyright by Postini, Inc. (1999-2006).

Postini 社は、このマニュアルを「現状のまま」、商品性や特定の用途への適合性に対する暗黙の保証を含めて、明示または暗示を問わずいかなる保証を付けずに提供します。Postini 社は、予告なしにこのマニュアルを変更することがあります。一部の司法管轄区域では、特定のいくつかの取引において明示または暗示を問わない保証の放棄を認めています。その場合、この条項は該当しません。

#### GD グラフィックスの著作権について

Postini 社は、GD グラフィックスを利用しています。

部分的著作権 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000 Cold Spring Harbor Laboratory. Grant P41-RR02188 に基づく National Institutes of Health からの資金提供。

部分的著作権 1996, 1997, 1998, 1999, 2000 Boutell.Com, Inc.。

GD2 に関する部分的著作権 1999, 2000 Philip Warner.

PNG に関する部分的著作権 1999, 2000 Greg Roelofs.

libtiff に関する部分的著作権 1999, 2000 John Ellson (ellson@lucent.com)。

JPEG に関する部分的著作権 2000 Doug Becker および著作権 (C) 1994 ~ 1998 Thomas G. Lane.

このソフトウェアの一部 Independent JPEG グループの著作物に依拠しています。 .

WBMP に関する部分的著作権 2000 Maurice Szmurlo および Johan Van den Brande.

この告知をユーザーがよく利用するサポート資料に含めることを条件に、商用アプリケーションを含め、いかなる場合においても gd を無償で複製、配布、および変更する許可が付与されています。

この著作権情報は派生した著作物の所有権に影響するものではありません。その意図は、生産的な gd の利用を妨げるのではなく、gd の各作者にその正式な著作権が帰属することを明確にすることにあります。不明な点がある場合は、お問い合わせください。「派生した著作物」には、このライブラリを利用しているあらゆるプログラムが含まれます。ユーザーがよく利用する資料に著作権情報を含める必要があります。

このソフトウェアは「現状のまま」で提供されます。著作権所有者は、このコードおよび付属する資料に関して商品性や特定の用途への適合性に対する暗黙の保証を含めて、明示または暗示を問わずいかなる保証も放棄します。

コードが gd 1.8.4 に現れることはありませんが、このソフトウェアの作者は David Koblas、David Rowley、および Hutchison Avenue Software Corporation の貢献に感謝します。



# 1. コンソールへのログイン

アクティベーションを開始するには、Administration Console にログインします。

1. Web ブラウザを使用し、サービス申し込み後に送られる「Ready for Activation」の電子メールに記載されているログイン URL に移動します。

この電子メールには「ログイン名」も記載されています。

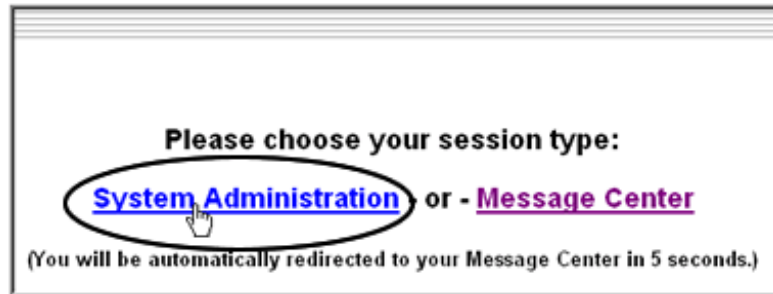


2. ログインフォームが表示されます。受信したメールに記載されているログイン名と、サービス申し込み時に指定したパスワードを入力します。「Login」をクリックします。

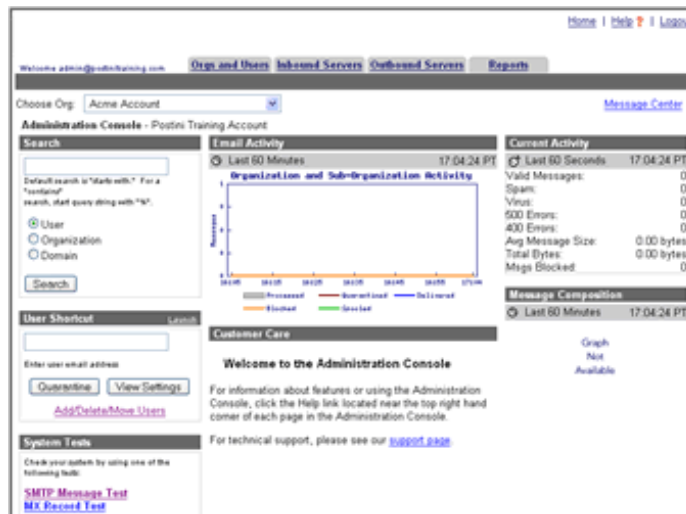


3. 次の画面が表示されたらすぐに、「System Administration」のリンクをクリックします。

この画面で何もしない状態が5秒を超えると、ここでの目的の場所ではない Message Center に自動的に移動します。その場合は、この手順の項目 1 に戻り、最初から操作をやり直してください。



Administration Console にログインすると、次に示すような「Home」ページが表示されます。



ログインしたら、次の手順、9ページの「2. サーバーのテスト」に進んでください。

## よくある質問と回答

### パスワードを忘れた場合は、どうすればいいでしょうか。

パスワードを忘れた場合は、ログインフォームのパスワードフィールドに何か文字列を入力してください。「Forgot your password?」リンクが表示されます。このリンクをクリックし、指示に従って操作を行ない、新しいパスワードの発行を受けます。管理者(ログイン)アドレスに新しいパスワードが送られてきます。

パスワードが届かない場合は、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの anti-spoofing (なりすまし防止) 機能が有効になっていることが考えられます。なりすましの防止に関する電子メールフィルタ機能を無効にして、手順をやり直してください。なりすまし防止の設定については、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの製品マニュアルまたはサポート資料をお読みください。電子メール保護サービスには迷惑メールに対する包括的なフィルタ機能があるため、メールサーバー側でのなりすまし防止は必要ありません。

### 「Ready for Activation」電子メールを失った場合は、どうすればいいでしょうか。

アクティベーション情報が記載されていた電子メールを紛失した場合は、サポートにご連絡ください。

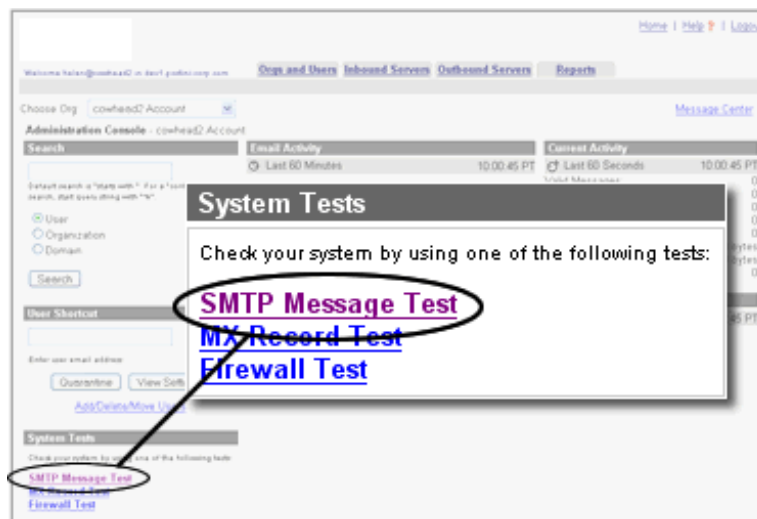


## 2. サーバーのテスト

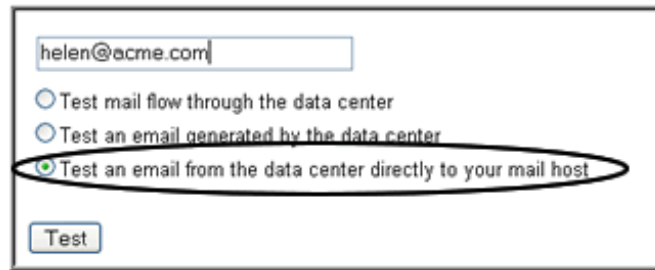
この手順では、データセンターが正常にメールサーバーに接続できるかどうかを確認するための簡易テストを実施します。

### 1. Administration Console の「Home」ページにある「SMTP Message Test」のリンクをクリックします。

このリンクは、初めてログインしたときに表示されるページの左下にあります。



2. 「SMTP Message Test」 ページで管理者のアドレス (ログインに使用したアドレス) を入力し、3 つあるラジオボタンオプションから 3 番目の「Test an email from the data center directly to your mail host」を選択します。



helen@acme.com

Test mail flow through the data center

Test an email generated by the data center

Test an email from the data center directly to your mail host

Test

3. 「Test」 ボタンをクリックします。

データセンターからテスト用の電子メールが送信され、ページの下の方にそのテスト結果が表示されます。テストに問題がなかった場合は、次のようなメッセージが表示されます。

```
Sending test email to helen@acme.com:
```

```
Establish connection...
Sending HELO
Sending MAIL FROM
Sending RCPT TO
Sending data
End of data dot
Success
```

テスト用のメッセージは管理者のアドレスにも送信されます。

```
From: Test <test@psmtp.com>
To: helen@acme.com
Subject: Email Flow Test
This is a test message.
```

この電子メールが届かず、テストが失敗した場合は、「よくある質問と回答」を参照してください。

テストが成功したら、次の手順、13 ページの「3. DNS レコードの変更」に進みます。

## よくある質問と回答

### SMTP テストが失敗した場合は、どうすればいいでしょうか。

指定されたテストアドレスのサーバーに何らかの理由で到達できない場合、このテストは失敗します。次のことを行なって、問題の原因を突き止めてください。

- 「Ready for Activation」電子メールで、サービス申し込み時に指定した電子メールサーバーのホスト名とドメイン名に誤りがないことを確認します。誤りがない場合は、下記の残りの項目に進みます。
- 指定したテスト用電子メールアドレス用の正常な電子メールのアカウントがサーバーに存在することを確認します。このテストが成功するには、指定したアドレスがサーバーに存在する必要があります。
- サーバーが本当に使用可能であること、例えば、他のユーザーと電子メールを正しく送受信できることを確認します。

アクティベーションに進む前に、問題の原因を突き止めて、問題を解決する必要があります。何が問題であったのかについては、メッセージそのものをご覧ください。返された SMTP エラーについては、メールサーバーのログを調べてください。これらの情報が、問題の解決に役立つことがあります。

テストには成功したのに、テストメッセージが届かなかった場合は、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの **anti-spoofing** (なりすまし防止) 機能が有効になっていることが考えられます。なりすましの防止に関する電子メールフィルタ機能を無効にして、テストをやり直してください。なりすまし防止の設定については、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの製品マニュアルまたはサポート資料をお読みください。電子メール保護サービスには迷惑メールに対する包括的なフィルタ機能があるため、メールサーバー側でのなりすまし防止は必要ありません。

### テストメッセージが届かなかった場合は、どうすればいいでしょうか。

テストには成功したが、テストメッセージが届かなかった場合は、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの **anti-spoofing** (なりすまし防止) 機能が有効になっていることが考えられます。なりすましの防止に関する電子メールフィルタ機能を無効にして、テストをやり直してください。なりすましの設定については、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの製品マニュアルまたはサポート資料をお読みください。電子メール保護サービスには迷惑メールに対する包括的なフィルタ機能があるため、メールサーバー側でのなりすまし防止は必要ありません。

**サービス申し込み時に指定した電子メールサーバーのホスト名が間違っていた場合は、どうすればいいでしょうか。**

「Ready for Activation」電子メールに記載されている電子メールサーバーのホスト名が正しくない場合は、次の手順を実行してください。

1. Administration Console の任意のページの最上部にある「Choose Org」リストから、名前に「Email Config」が含まれている org を選択します。
2. 「Inbound Servers」タブの Delivery Manager に移動します。

「Delivery Manager」ページで「Edit」のリンクをクリックし、「Email Servers」の下にあるご使用の電子メールサーバーのホスト名が正しいか確認します。正しくない場合は、正しいホスト名を入力して、「Save」をクリックします。

**サービス申し込み時に指定したドメイン名が間違っていた場合は、どうすればいいでしょうか。**

「Ready for Activation」電子メールに記載されているドメイン名が正しくない場合は、次の手順を実行してください。

1. Administration Console の「Orgs and Users」タブの Domains に移動します。
1. 「Domains」ページのご使用のドメイン名が正しいかどうかを確認します。正しくない場合は、「Choose Orgs」リストから名前に「Users」が含まれている org を選択します。ページ右上の「Add Domain」ボタンをクリックします。
2. 「Add Domain」ページで正しいドメイン名を入力し、「Save」をクリックします。



この方法が不明な場合、あるいはドメインが ISP によってホスティングされていて、その DNS レコードにアクセスできない場合は、下記の「よくある質問と回答」の節に進みます。

**警告：**電子メールに記載されているもの以外のドメインの MX レコードを変更しないでください。後でサービスに他のドメインを追加したり、そのレコードを変更したりできます。

**3. ご自分の DNS サービスで DNS レコードの TTL (Time to Live) の設定を 600 秒 (10 分) か、できるだけこれに近い数値に変更します。**

この TTL 設定 (通常は秒単位) によって、DNS の変更が有効なるために要する時間が決まります。デフォルトでは、しばしば TTL は大きな番号に設定されているため、もっと小さな番号 (600 前後の値) に設定することによって、加えた変更がすぐに有効になるようにします。

**4. ドメインの既存のレコードより、優先順位の高い位置に、電子メールに記載されている新しい DNS MX レコードを追加します。**

次の例では 100 ~ 600 の番号 (100 が最高の優先順位) を使って優先順位が示されています。

DNS MX RECORDS	
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX IN MX 100 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	New MX records (higher priority)
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX IN MX 200 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX IN MX 300 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX IN MX 400 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	
<hr/>	
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX IN MX 500 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	Old MX records
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX IN MX 600 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	

## DNS レコードの内容の詳細

*jumboinc.com* という会社の例を考えてみましょう。元の MX レコードの内容が次のようになっていると仮定します。

```
jumboinc.com. IN MX 100 mailhost1.jumboinc.com
jumboinc.com. IN MX 200 mailhost2.jumboinc.com
```

アクティベーションの電子メールに記載されていた新しい MX レコードが次のようになっていたとします。

The DNS MX RECORDS you will need to set for your company:

```
jumboinc.com. IN MX 100 jumboinc.com.s71a.psmtip.com
jumboinc.com. IN MX 200 jumboinc.com.s72a.psmtip.com
jumboinc.com. IN MX 300 jumboinc.com.s71b.psmtip.com
jumboinc.com. IN MX 400 jumboinc.com.s72b.psmtip.com
```

元の MX レコードの上に新しいレコードを追加し、元の MX レコードの優先順位が新しいレコードよりも低くなるように設定します。

```
jumboinc.com. IN MX 100 jumboinc.com.s71a.psmtip.com
jumboinc.com. IN MX 200 jumboinc.com.s72a.psmtip.com
jumboinc.com. IN MX 300 jumboinc.com.s71b.psmtip.com
jumboinc.com. IN MX 400 jumboinc.com.s72b.psmtip.com
```

```
jumboinc.com. IN MX 500 yourmailhost.jumboinc.com
jumboinc.com. IN MX 600 mailhost2.jumboinc.com
```

**警告:** 実際のドメインに「domain」という単語を追加しないよう注意してください。例えば、次のレコードは正しくありません。

```
jumboinc.com. IN MX 100 domain.com.s71a.psmtpt.com
jumboinc.com. IN MX 200 domain.com.s72a.psmtpt.com
jumboinc.com. IN MX 300 domain.com.s71b.psmtpt.com
```

レコードを変更して、TTLに設定した時間が経過し、レコードの変更が伝播されたら、次の手順、19ページの「4. DNS レコードのテスト」に進みます。

## よくある質問と回答

### DNS の MX レコードとは、どのようなものでしょうか。

ドメインの登録時、そのドメインには、インターネット上でその位置を特定することを可能にするいくつかの DNS レコードが割り当てられます。MX レコードはそうした DNS レコードの一種で、ドメインのメールの流れを方向付けます。各 MX レコードは、そのドメインのメールを処理するように構成されている電子メールサーバーを指し示します。通常、プライマリサーバーを指し示すレコードが1つと1つまたは複数のバックアップサーバーを指し示す追加のレコードがあります。ユーザーが電子メールを送受信するには、そのドメインの MX レコードがそのユーザーのメールを処理できるサーバーを指し示している必要があります。

現在、あなたのドメインのレコードはおそらく会社のサーバーか、ドメインが ISP によってホスティングされているのであれば、その ISP のサーバーを指し示していることでしょう。電子メールに保護サービスによるフィルタをかけるには、代わりにデータセンターのサーバーを表す新しいレコードを追加する必要があります。

### ドメインの MX レコードの変更方法がよく分かりません。

あなたの会社に独自の電子メールサーバーがある場合（すなわち、会社が ISP と契約していない場合）は、会社のネットワーク管理者が、新しいレコードを追加してくれるはずです。ネットワーク管理者に上記の指示内容を見てもらい、受け取った「Ready for Activation」電子メールを提供してください。この電子メールに、追加すべきレコードが記載されています。

あなたのドメインが社外の ISP によってホスティングされている場合は、その ISP に新しい MX レコードを伝え、ドメインの MX レコードを変更するよう依頼してください。

## **ドメインは ISP によってホスティングされています。問題ありませんか。**

多くの場合、問題ありません。ただし、ISP にドメインの DNS レコードを変更してもらう前に、その ISP で、データセンターサーバーなどの外部サーバーへの電子メールトラフィックの転送が可能であることを確認してください。ISP およびホスティング会社によっては、できないこともあります。その場合は、ドメイン内のユーザーへのメールの流れに問題が発生することがないように、DNS 変更を行う前に ISP と回避策について相談してください。詳細は、ISP の技術サポートにお問い合わせください。

## **ドメインの MX レコードが、100 ~ 600 の番号方式の優先順位付けが行われていない場合は、どうすればいいでしょうか。**

通常、優先順位は 100 ~ 600 の番号 (100 が最高の優先順位) を使って指示されます。しかし、ご使用の DNS サービスの優先順位付け方法が異なっても、例えば 1 ~ 6 の番号方式が使われていても、問題はありません。既存のレコードよりも高い優先順位で新しいレコードが追加される限り、任意の方式を利用できます。

## **いずれにしても MX レコードの優先順位が重要なのは、どうしてでしょうか。**

既存の MX レコードより高い優先順位で新しいレコードを追加することによって、フィルタの行われない会社のサーバーにメールが直接送信されず、フィルタが行われるデータセンターのサーバーにメールが送られるようになります。

各 MX レコードは、ドメイン名と優先順位、電子メールホストの 3 つの部分で構成されます。優先順位は、指定ドメイン宛のメッセージの送信先を決定する際に最初に調べるレコードを示します。通常は、最高の優先順位を持つレコードに指定されたプライマリサーバーが使用されます。しかし、そのサーバーが使用できない場合は、次に高い優先順位のレコードが評価される (通常はバックアップサーバー) というように、レコードが評価されます。

## **TTL 設定とはどのようなものでしょうか。**

別のサーバーを指し示すようにドメインの MX レコードを変更しても、その変更がただちに有効になるわけではありません。インターネット全体に変更が伝播される必要があります。この伝播にどれくらい時間がかかるかは、現在の TTL (*Time to Live*) 設定に依存します。通常、この設定の単位は秒で、例えば TTL 値「3,600」は、変更の伝播に最大 1 時間かかることを意味します。TTL 時間を短くすることによって、変更の伝播に要する時間を短くすることができます。

この伝播が行われている間、ドメインは引き続き現在のサーバーを指し示し、ユーザーのメールの流れも以前のままです。

## **ドメインの IP ブロックが有効である場合は、どうすればいいでしょうか。**

特定の IP アドレスからのメールをブロックするようにドメインが設定されている場合は、MX レコードの変更後にこのブロックを再設定する必要があります。新しい DNS レコードが伝播されたら、Administration Console の Connection Manager に移動してください。任意の画面の最上部にある「Help」のリンクをクリックし、「Connection Manager」のトピックに移動すると、その情報を見ることができます。

### 古いMXレコードはいつ削除すればよいでしょうか。

アクティベーションを完了し、ドメイン内のユーザーがフィルタのかけられた電子メールを正常に送受信できるようになったら、古いMXレコードを削除してもかまいません。しかし、そのときまでは、古いレコードを残しておいた方がよいでしょう。

例えば入力された新しいレコードに誤りがあった場合、DNSサービスは、メールの送信先のデータセンターサーバーを見つけることができません。古いレコードが残っていれば、以前と同様、DNSサービスはそれらサーバーを使ってメールを会社のサーバーに直接送信できます。その逆に、古いレコードが削除されていると、メールトラフィックの送信先がないため、ドメイン宛のあらゆるメールが宛先不明で返されて、ユーザーに届かなくなってしまいます。

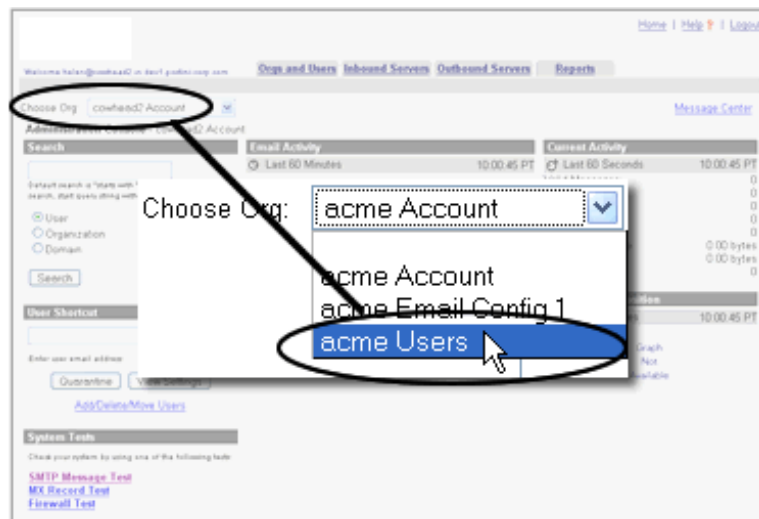


## 4. DNS レコードのテスト

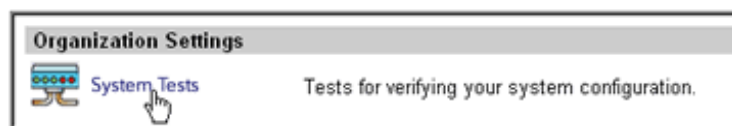
ドメインの DMS MX レコードを変更し、TTL 時間が経過したら、Administration Console に再びログインし、新しいレコードが伝播されたことを確認するためのテストを実行します。

**警告:** MX レコードを変更後、TTL 時間が経過しないうちに、このテストを行うと、テストに失敗します。必ず、TTL 時間が経過してからテストを行なってください。

1. Administration Console の「Home」ページの最上部にある「Choose Org」リストを開き、名前に「Users」が含まれている 3 番目の org (organization の略語) を選択します。

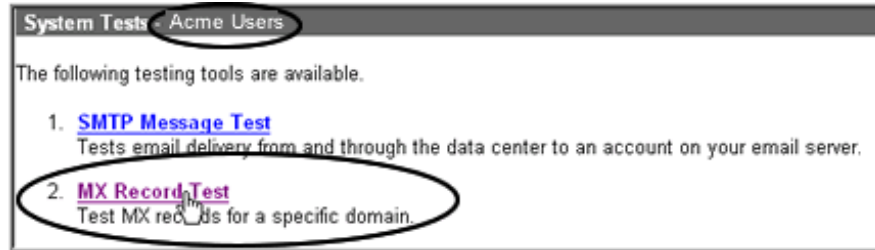


2. 表示されたページで「System Tests」のリンクをクリックします。  
このリンクは、ページを下方向にスクロールするとあります。



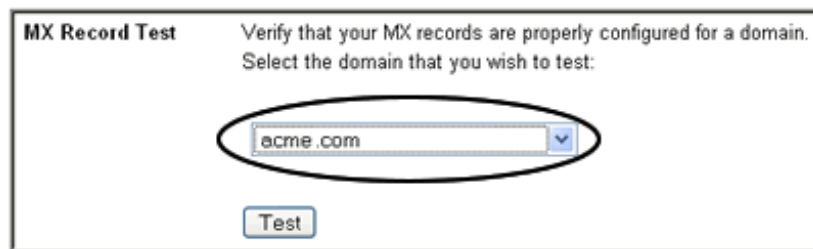
3. 「System Tests」 ページで「MX Record Test」 のリンクをクリックします。

ページの最上部に「自分のアカウント名 Users」 があることを確認します。



4. 「MX Record Test」 ページで「Test」 ボタンをクリックします。

リストに自分のドメイン名があることを確認します。



しばらくすると、ページの最下部にテストの結果が表示されます。テストに問題がなかった場合は、次のようなメッセージが表示されます。

acme.com: MX records OK.

```
acme.com IN      MX      100 acme.com.s1a1.psmtip.com
acme.com IN      MX      200 acme.com.s1a2.psmtip.com
acme.com IN      MX      300 acme.com.s1b1.psmtip.com
acme.com IN      MX      400 acme.com.s1b2.psmtip.com
```

このテスト用電子メールが届かず、テストが失敗した場合は、「よくある質問と回答」を参照してください。

テストが成功したら、次の手順、23 ページの「5. メールの流れのテスト」に進みます。

## よくある質問と回答

### テストに失敗しました。原因が分かりません。

このテストが失敗する原因として最も考えられるのは、新しい MX レコードの伝播がまだ完了していないことです。TTL 時間が経過する前にテストを行った場合は、テストをやり直してください。

TTL 時間の経過を待ってテストを行なったにもかかわらず、テストが失敗した場合は、次のことを行なって問題の原因を突き止めてください。

- 入力したどのレコードにも誤りがないことを確認します。例えば特定のレコードが見つからないというエラーメッセージが報告された場合は、そのレコードの入力に誤りがあった可能性があります。その場合は、再入力して、TTL 時間が経過してから、テストをやり直してください。
- プライマリおよびセカンダリネームサーバーが新しい DNS レコードと正しく同期していることを確認します。通常、プライマリネームサーバーにレコードを入力すると、セカンダリネームサーバーも自動的に更新されます。しかし、DNS サービスによっては、セカンダリネームサーバーを手動で更新しなければならないことがあります。
- ご利用の ISP が電子メール保護サービスと共存しうることを、具体的には、その ISP で、外部サーバーへの電子メールトラフィックの転送が可能であることを確認します。ISP およびホスティング会社によっては、できないこともあります。その場合は、すぐに ISP と回避策について相談してください。詳細は、ISP の技術サポートにお問い合わせください。

上記のことを行なっても、まだ問題が解決しない場合は、サポートにお問い合わせください。

**警告:** この問題は速やかに解決してください。そうしないと、対象のドメイン宛ての電子メールがユーザーに届かず、送信者に送り返されます。



## 5. メールの流れのテスト

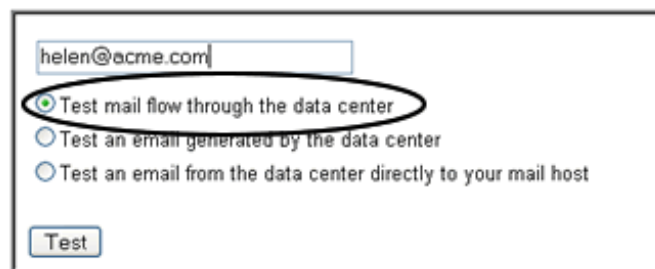
ドメインの MX レコードがデータセンターのサーバーを指し示していることを確認したら、ドメイン宛のメールがこれらのサーバーを経由し、フィルタに通されていることを確認します。この手順では、外部からテストメッセージを発信し、そのメッセージがデータセンターを経由しサーバーに送信されることをテストします。

### 1. 「SMTP Message Test」 ページに戻ります。

- 「MX Record Test」 ページでブラウザの「Back」 ボタンをクリックして「System Tests」 ページに戻り、「SMTP Message Test」 のリンクをクリックします。
- または、Administration Console の「Home」 ページの左下にある「SMTP Message Test」 リンクをクリックします。

### 2. 「SMTP Message Test」 ページで管理者の電子メールアドレスを入力し、「Test mailflow through the data center」という最初のラジオボタンを選択します。

ログインで使用した管理者のアドレスを入力してください。



helen@acme.com

Test mail flow through the data center

Test an email generated by the data center

Test an email from the data center directly to your mail host

Test

### 3. 「Test」 ボタンをクリックします。

データセンターからテスト用の電子メールが発信され、ページの下部にそのテスト結果が表示されます。テストに問題がなかった場合は、次のようなメッセージが表示されます。

```
Sending test email to helen@acme.com:
```

```
Establish connection...
```

```
Sending HELO
```

```
Sending MAIL FROM
Sending RCPT TO
Sending data
End of data dot
Success
```

The email data center can deliver email to this email server.

#### 4. 管理者の受信箱 (Inbox) にテストメッセージが届いていることを確認します。

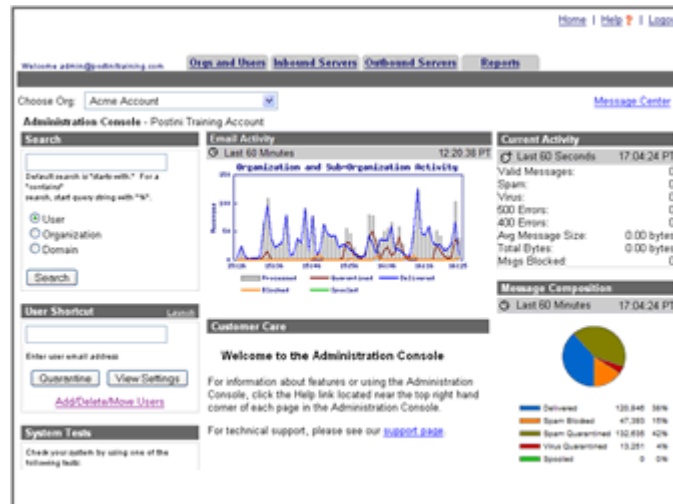
このテストに成功すると、管理者のアドレスにテストメッセージが送信されます。このメッセージの受信を確認してください。受信できない場合は、下記の「よくある質問と回答」を参照してください。

テストに成功し、テストメッセージを受け取ったら、次の手順、27 ページの「6. ユーザーの追加」に進みます。

## よくある質問と回答

### 電子メールがフィルタを通されていることは、どのようにして確認できますか。

Administration Console に表示されるグラフによって、データセンターにおける現在の電子メールの状況、迷惑メールやウイルスとしてフィルタされたメッセージの状況、サーバーに送信されたメッセージの状況を把握することができます。管理者のアドレス宛ての電子メールがデータセンターを経由し始めたら、Console の「Home」ページに移動して、この状況を確認してください。



## テストメッセージが届かなかった場合は、どうすればいいでしょうか。

テストには成功したのに、テストメッセージが届かなかった場合は、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの anti-spoofing (なりすまし防止) 機能が有効になっていることが考えられます。なりすましの防止に関する電子メールフィルタ機能を無効にして、テストをやり直してください。なりすまし防止の設定については、ご使用のファイアウォールまたはメールサーバーの製品マニュアルまたはサポート資料をお読みください。電子メール保護サービスには迷惑メールに対する包括的なフィルタ機能があるため、メールサーバー側でのなりすまし防止は必要ありません。

ウェルカム (Welcome) メッセージその他の通知を送信するとき、電子メール保護サービスのデータセンターは、そのメッセージがサポートのアドレスから発信されたかのように「なりすまし」ます。こうすることにより、ユーザーはサポート担当者とは直接対話している感じを受けます。アクティベーションに進み、サービス全般を使用するには、なりすまし防止を無効にしておいてください。

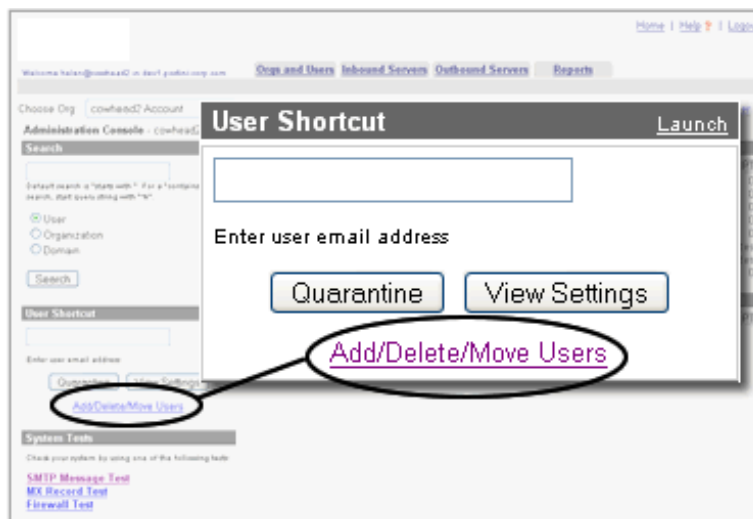


## 6. ユーザーの追加

管理者のアドレス宛のメールにフィルタがかけられていることを確認したら、サービスに他のユーザーを追加します。この作業は、Administration Console で行います。

**警告：**ドメインの DNS MX レコードを変更した後も、ユーザーをサービスに追加するまで、ユーザーの電子メールがフィルタに通されることはありません。

1. Administration Console の「Home」ページの「System Test」リンクの真上にある「Add/Delete/Move Users」のリンクをクリックします。



1. 「Add, Delete, and Move Users」ページで、ドメイン内のユーザーで、フィルタに通すすべてのユーザーのアドレスを入力します。

各アドレスはコンマか改行 1 つで区切ります。追加するユーザーはサーバー上に電子メールのアカウントを持っている必要があります。

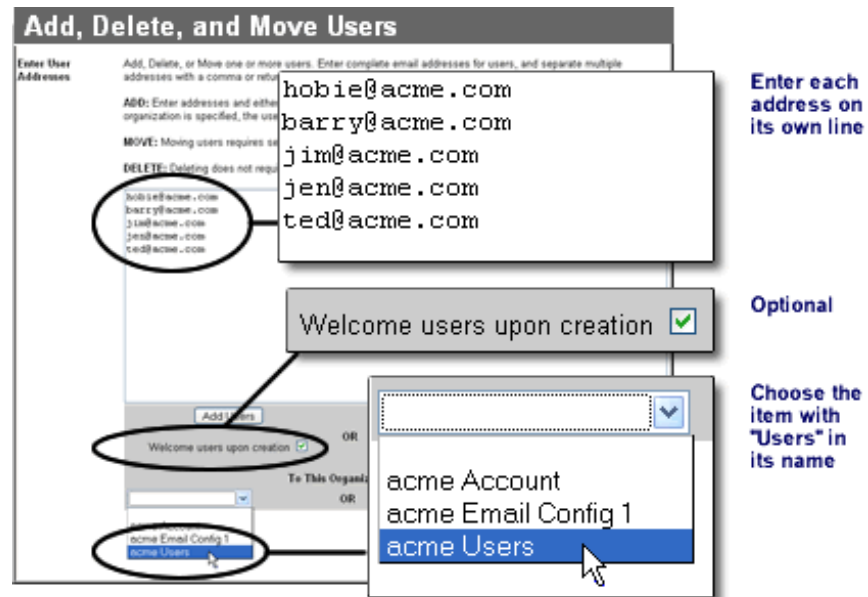
ヒント：テキスト形式のユーザーのリストからアドレスを貼り付けると、一度に複数のユーザーを追加できます。

2. 「Add Users」をクリックします。

3. (任意) 「Welcome users upon creation」を選択します。

このオプションを選択すると、そのユーザーにただちに Welcome 通知が送信されます。このオプションを選択しなかった場合は、ただちにではなく、ピーク時間外 (例えば太平洋標準時の早朝) に Welcome 通知が送信されます。当初のサービス申し込み時に「Notifications」を有効にしない選択をした場合、この通知は送信されません。

4. フォームの左下にあるリストを開き、名前の部分が「Users」の組織を選択して組織階層内の適切な場所にユーザーを追加します。



ユーザー追加フォーム: 1 ユーザーアドレスを1行に1つ入力する。  
2 (任意) このオプションを選択する。3 リストから3つ目の組織 (名前に「Users」が含まれている組織) を選択する。

これで、上記手順で入力したすべてのユーザーに対する電子メールの保護のアクティベーションが完了しました。

次に行う作業については、29 ページの「次に行う作業」をお読みください。

## 次に行う作業

1つのドメインについて、追加したユーザーに対する電子メールの保護を有効にしたら、次のことを行なってください。

- その他のメールサーバー、ドメイン、ユーザーを追加する。ユーザーが電子メール保護を受けるには、そのメールサーバーとドメイン、電子メールアドレスをサービスに登録する必要があります。
- データセンターからのトラフィックのみ受け付けるようファイアウォールの設定を変更する。これは、迷惑メールがデータセンターをバイパスして、ユーザーに直接送られないようにするためです。
- フィルタの設定を調整し、ユーザーに関する他のポリシー（ユーザーが送受信可能なメッセージの種類、送信者の承認/拒否など）を設定する。
- ユーザーをグループ編成してグループ別にサービスをカスタマイズする。
- **Administration Console** を操作して、サービスのカスタマイズや管理、監視などのその他の機能を学ぶ。

詳細については、次の操作を実行してください。

- **Administration Console** にログインし、各ページの最上部にある「Help」のリンクをクリックする。